

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	F L O W上牧		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・OT(作業療法士)・PT(理学療法士)・保育士等の専門の職員が多く配置されている事。 ・専門的な研修を1年を通して数回おこなわれていて、スキルアップの向上の機会が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの専門性を学習する機会を持ち、情報の共有を意識して行っている。 ・保護者に説明できるように簡単な遊びのねらいについてのコメントを分かりやすくまとめたモノを作成している。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育で親子療育を学期に1回実施できている。 ・事業所の近くに交通機関やお店や神社・公園などあり、戸外での活動がしやすい環境にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流の場にしたり、子どもの捉え方や環境への配慮など考えて欲しい課題を提示して一緒に考える機会を持つ。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・会社内にST(言語聴覚士)の個別療育があり、相談支援事業や保育所等訪問などの事業もあり、こどもの情報共有がしやすいのでいろいろな場面での子どもの様子が分かること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの担当の職員と情報交換できる様に連携を密にする。 	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・療育室に大きな柱がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の真ん中の柱は子どもがぶつからないように保護マットを巻いたり、また活動中は子どもの動きを予測しながら安全確保に努めているが、人員不足や予測ミスなどで危険なことも稀に起きる。 ・小学生になると体が大きくなり、動きも激しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に沿った動き方ができるような打ち合わせを今までと同じように丁寧に随時行う。また個々のスタッフのスキルアップを強化する。 ・活動内容の工夫と場所の配慮。(事業所の隣にある空き地を利用機会を増やした。)
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	FLOW上牧
------	--------

公表日 2026年3月31日

利用児童数

8人

回収数

7人

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1				スペースが十分ではないかもしれませんが、活動内容を十分考え工夫しながら活動空間を設定するよう努力しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	2				今後も子どもたちの特性に応じて適切な配慮を行うよう努力します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	1				これからも専門性を高めていけるよう努力してまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6			1		放課後等デイサービスのガイドラインに沿って支援内容を設定しています。ご不明な点やご質問等ありましたら職員までお知らせください。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3		3	1		地域の他の子どもとの交流は設定していません。事業所内で他の地域の学校から通う他児と交流しています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1				今年度の放課後等デイサービスの保護者様には年2～3回ほど保護者同士が交流できる場面を設定し情報の共有する機会を実施しています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	6		1			今後も保護者様と子どもさんの様子について情報共有を努力してまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6		1			定期的なモニタリングはさせていただいております。ご相談等ありましたら職員にお声掛けいただきたいです。迅速に対応するよう努力します。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	1				共感的に支援できるよう職員一同努力してまいります。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	3	1	2	1		保護者や兄弟同士の交流のための催しについてはご家族様全体の意見を聞きながら努力してまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	1		1	子どもやご家族様のご相談などを今後とも迅速にお受けするよう努力してまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6			1	今後も保護者様と意思疎通や情報伝達に努力してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	1			ホームページ・Instagram・公式ライン等での情報を発信しています。事業所アンケートの結果はホームページで公表しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	1			事故等が起きた場合は保護者様に速やかな連絡と説明を今後も努力してまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7				
	29	事業所の支援に満足していますか。	6	1			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		FLOW上牧				公表日 2026年3月31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・中央にある柱でぶつからない様にマットで保護して常に注意はしている。	・遊びや作業を区分けするための環境設定が課題。その為の活動案の計画性が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・マット等で仕切ることができる。 ・段ボールでつい立てを作成して使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		5		・必要に応じて参加していきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			・会社として関係機関の連携に努めていく姿勢である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		5		・送迎していないので特にしていない。 ・保護者を通して学校行事等の確認はしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			・保護者を通して就学前から利用されている保護者が多いので情報を共有するよう務めている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5		・小学1～2年生までの利用としている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		・社内にスーパーバイザーが存在し助言は受けることができる。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5		・依頼があれば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		・ FLOW全体では保護者同士が交流できる催しを年数回開催している。 ・ 療育集団の保護者同士の交流の機会を1年に2回した。	・ 保護者同士の交流は回数を増やしたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			・ 現在は特に必要な利用児さんがいないので医師の指示書は提出してもらっていないが、場合によっては検討し対応していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			・ 現在常時身体拘束の説明が必要な利用児はなく、組織的に身体拘束について研修し毎月確認している。		